



Sustainable Society Research (SSR) 2nd Year High School



2021年4月13日 SSR（高校2年生）－授業－

SSR 授業の計画

昨年度はほぼオンラインでの講座開講となった SSS(Sustainable Society Study)ですが、SSS に続く本講座 SSR(Sustainable Society Research)を、選択授業の 1 つとして 16 名の生徒たちと対面でスタートを切ることができました。担当の教員は、西田喜久夫教諭（国語科）と佐藤友亮教諭（社会科）の 2 人です。3 年間を通じて学ぶこの講座では、多様な専門の教員によるチームティーチング形式での授業が大きな特色の 1 つです。

●SSR 講座の今後の展開

私たちの学びのテーマは、持続可能な、そして住み続けたい「街づくり」です。3 年生で、WWL の連携校と共に国際会議開催を目指しています。2 年生では、そのための準備として、必要なリサーチ、プレゼンテーションスキルをしっかりと身に付けたいと思います。

- 1 学期・・・京田辺市との比較研究において、課題図書
の精読、レポート作成、発表
- 2 学期・・・京田辺市のリサーチ、フィールドワーク実施
- 3 学期・・・京田辺市への提言



●課題図書の選択

教員が事前に選定した私たちのテーマである「街づくり」に関わる 6 冊の課題図書の中から、生徒それぞれが興味のある 1 冊を選択します。そして、精読するにあたり 6～7 回に及ぶ読書計画を立てました。今後の授業では、読み進めた箇所までの要約、FAQ とそれに対する解答までをまとめてワークシートに記入していきます。グループでのディスカッションを経て、最終的にはレポートを仕上げ発表します。

【課題図書】

『まちづくり心理学』副題：「愛着」から考える地域再生のエッセンス

城月 雅大 編著 / 園田美保・大槻知史・呉宜児 著
名古屋外国大学出版会

『住みたい街を自分でつくる』副題：ニューヨーク州イサカの医療・食農・省エネ住宅

リズ・ウォーカー 著 / 三輪妙子 訳 築地書館

『2030 年の世界地図帳』副題：新しい経済と SDGs、未来への展望

落合 陽一 著 SB クリエイトィブ

『あなたのまちの政治は案外、あなたの力でも変えられる』

副題：生活そのものが政治で、僕らが働くことが政治

五十嵐 立青 著 ディスカヴァー携書

『孤立する都市、つながる街』副題：誰も助けしてくれない都市を、どう変えていくのか

保井 美樹 編著 / 全労済協会「つながり暮らし研究会」編

日本経済新聞出版社

『MaaS が都市を変える』副題：「移動」×「都市 DX」の最前線

牧村 和彦 著 学芸出版社

●アイスブレイク

初めて顔を合わせる生徒たちもいます。この講座では今後グループワークが多くなるため、お互いをよく知り、また協力することが大切になります。そこで、今日は 2 つのチャレンジを通じてお互いを知り、打ち解ける時間をもちました。

【他己紹介】・・・4 人 1 グループで、お互いを紹介

①フルネーム/名前の由来②興味ある事/理由③日本の良い悪いところ/理由

↓

別の 4 人グループになり、自分と先ほどのグループで知った 3 人を紹介

↓

次の別の 4 人グループになり、自分と最初のグループで知った 3 人、そし

て前のグループで知った 12 人を紹介

【チームビルディング】・・・4 チームに分かれ、決められた時間、決められた材料を使って、

チームで協力してなるべく高い塔の完成を目指します。

1 つ目のチャレンジでは、相手の特長を掴んで記憶に残すこと、そして 2 つ目のチャレンジでは、チーム内での役割分担による効率化をはかり、しっかりとチームワークが求められました。2 つとも生徒たちは大いに盛り上がり、あっという間にアイスブレイクは成功。見事にチームによって違う個性が伺えたことから、生徒たちの多様性を感じることができ、今後の活動がますます楽しみになりました。



2021年4月20日 SSR（高校2年生）－授業－

リサーチスキル基礎

第1回 調べる前に－そもそも何のために調べるのか－

これから課題図書を読み進めレポートを書くこととなりますが、今日はそのための基礎的な知識についてレクチャーを受けます。佐藤教諭からは、レポートを書くにあたり押さえておく必要があるポイント、西田教諭からは実際の新聞の社説を使つての実践形式で文章の要点をいかに効率良くつかむかについて学びます。

●レポートとは



(1) レポートって何を書くの？

論理的に説明し、学んだ知識を元に問い、考察することです。単に自分の感想を書くものではなく、批判するにも肯定するにも裏付けが必要です。

(2) 学問とは？

いつもの学習では、既存の知識や問題の解決法を得ること、つまり覚えることが中心だと思います。ただし、その知識は、今までの研究の中で多くの人が支持し、広く認められている考え方を基にしているもの、つまり決して「完全な」ものではありません。学問は、この知識を基に、その理論や仮説を更新していく作業です。批判的検討能力をもって、常識を疑い、本当か確かめる姿勢、また何が本質なのかを発見し、新たな解決法や対処法を見つけ出していく問題発見能力、解決能力が求められます。

(3) つまりレポートとは

知識に基づいて、問題が提起してあり、その問いに対する解答が示されていることが基本的な条件となります。この解答をいかに理論的に説明し、多様な考えを持つ人々に十分に理解してもらうことが必要です。こういった点からも、レポート力をあげるということは、コミュニケーション能力を高めていくことにも繋がり、皆さんが目指す国際会議開催においても大切なスキルになります。

●文章の要点を効率的につかむ

本を読むことは、知識を得ると同時にものの見方や捉え方も学んでいます。著者の主張を様々な問題や事例に適用しながら検討していくことが、問題意識や批判能力を養い、「問う」土台をつくることにつながっています。そこで批評のための準備として、文章を要約してみましょう。

小論文例題「朝日新聞社説より」全体の大きな流れをつかむ

(1) 「～しなければならない」という表現に注目し筆者の考え方の中心を捉えます。

(2) 「～もらいたい」という表現に注目し筆者の望むことは何か理解します。

(3) 「世界」と「日本」の現状についてその違いを明確にします。

(4) 「気がかりなのは」とありますが、どうして「気がかり」なのか説明します。

論文の読み方や、要約の仕方は、練習を積むことも大切です。間違いは恐れず挑戦して欲しいと思います。また皆さんは調べるといった時には、すぐにインターネットから情報を得ようとすると思います。ただしインターネットの情報というのは、検索した言葉の情報を集めているだけです。そういった意味からもしっかりとした本を読み、多角的、また論理的な視点を身に付け、常に疑問をもち、考察する姿勢を持って欲しいと思います。



【本日のボーナス】

前回の授業でのアイスブレイク、チームビルディングで挑戦した塔の制作ですが、ちなみに西田先生が建てるとこんな風になりました。2枚ずつ重ねた新聞紙をくるくると巻いてから芯を引き出して伸ばすという工夫で、新聞紙の棒が長くしっかりとした支えになっています。みんなから大きな歓声があがりました！



リサーチスキル基礎

第2回 参考資料や注の付け方

先週はレポートの書くうえでの基礎知識を学びました。レポートは知識を基に十分に考察し、論理的に説明する必要がありました。今日は、その知識をどこから得たか、また自分の考察は何から裏付けられるのかを示し納得してもらうための「注」について、こういったレポート作成上の重要なルールでもあるポイントを学びます。



●注(Quotation)とは

(1) そもそも「注」ってなんだ？

本文中で述べた説明や主張を補足し、それぞれがどのような資料的裏付け(根拠、エビデンス)を使っているのかを示して、自分の主張の根拠固めをするもの。

・否定するにも肯定するにも根拠が必要。

・どこからが自分の主張、どこからが引用(参考)か明らかにする必要。

・わかりにくい部分、言葉には補足説明が有効。

(2) 注の種類・使い方

・引用部や補足が多いのであれば、注が必要な頁の下部に注をつける。→脚注(footnote)

・各頁の注を最終頁にまとめて記載する。→後注(endnote)

・横書きの場合、文章が終わったところで、(1)や*1 など文章の右肩につける。また図や表を示す場合は、該当する文末に(図1)(表1)とつける。

「……………⁽¹⁾」。「」内の引用全体にかかるとき

……………⁽²⁾ 文全体にかかるとき

……………⁽³⁾…………… 直前の語句にかかるとき

また、生徒たちが選んだ課題図書も手元に届き、次はいよいよ読み進めていきます。先週学んだ文章を要約するときの実践からポイントを思い出し、各自読んだ箇所までをワークシートにまとめていました。

2021年5月11日 SSR（高校2年生）－授業－

リサーチスキル基礎

第3回 引用について

今日は、レポートを書くうえでの基礎知識「引用について」を学びます。3回にわたる基礎知識講座の最終回となります。誰もが、文章を書く、発言する、写真を撮る、そうすればそこには「著作権」が発生します。その点で、引用に関するルールを守るとはとても大切です。授業の後半では、いつものように課題図書の本読みとその要約に取り組みます。



●引用(Quotation)とは

(1) 引用ってなに？

「注」と同様に自分の主張、説明の裏付けや説明をより明確にするために他者の文章を自分のレポート内でそのまま使用すること。その際、文章の著作権、著作権の保護のために行う。

- ・引用文は正確・厳密に引用する
- ・引用が主になってはいけない
- ・孫引き（他者が引用した文章を、その引用のオリジナルを確認することなく、そのまま引用してしまうこと）は避ける

(2) 引用の表記方法

- ・引用が短い場合は、「」を使って本文中に直接引用部分を埋め込む。
- ・引用が長い場合は、引用部分の前後を1行ずつあけて、他の文章から独立させる。また引用部分全体を2字程度あける。

(3) インターネットからの引用と利用方法

- ・ネットで図書検索をする場合：CiNii Articles/J-stage/カーリル/各図書館の蔵書検索
- ・電子ジャーナルの活用：各大学図書館から検索
- ・ネット上の情報検索：インターネットの記事等はその情報の信憑性に要注意
- ・ネット上の情報は更新される場合も多く、いつ閲覧したか日程も表記する

どのように引用元を表記するかについても、日本語、英語の場合と説明がありました。知識が浅かった孫引きに関する注意や検索の際の信憑性が高いサイトなど、生徒たちは興味深く学んでいました。また、前回の講座で取り組んだ新聞コラムの要約も添削されて生徒たちへ返却されました。全体のアドバイスとして、要約はチャプターごとに区切り論理的構成をわかりやすくすること。そして「ところが」や「従って」という接続詞を上手に取り入れる工夫も有効です。皆、回を重ねるごとに上達していますので今後も頑張りましょう。

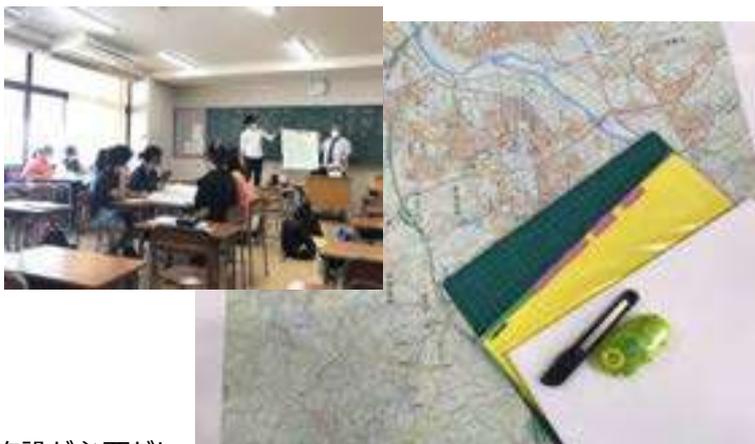
2021年5月18日,6月1日 SSR (高校2年生) -授業-

「まち」について -地図からまちを知る

「まち」について課題図書を読み進めている生徒たち。自分たちの地域を考察するにあたり、今日は視点を交えて地図上で実際の街を組み立ててみます。どのようなものが存在して欲しいか、また実際にはどこに存在するのかを、調べ、組み立て、検証するグループワークに取り組みました。

●各グループに用意したもの

- 京田辺市の地図
- カッター
- ウレタンパッド
- のり
- カラーペン
- カラー付箋
- iPad



●●作業

自分たちが住む街には、どのような施設が必要だと思いますか？

病院 学校 市役所 消防署 公園 郵便局 スーパー 駅 プール 飲食店 警察 道路 図書館 など

地図上のこれらの場所を調べ、そしてウレタンパッドを使って、地図上に配置してみよう。
小中学校の歴史からその地域の移り変わりや、そこから何がわかるかも考えてみましょう。



気付いたことは？

学校や公共施設は基本的に住宅地に隣接している
小学校が統廃合されていることから過疎化している地域がある
駅を中心に住宅地が移動
現在の住宅密集地は比較的新しそう
緑が多く自然が豊か など

●●●妄想し、そこから仮定へ

平面だった地図が徐々に立体的な街へと、実際のイメージがどんどん膨らんで来ました。ここからは、そのイメージをより膨らませて次のようなことを妄想し、仮定を立てましょう。

- その建物、施設がいつ、そしてその場所にできた背景
- 人口の推移、街の発展衰退の背景
- 現在のその地区の状況
- 人々の行動

(1)奈良時代に建立された寺社があるなど歴史のある普賢寺地区だが、現在は小学校のみ、駅もないことから、住民は田辺地区へと移った

(2)茶畑が多く古くからお茶産業で栄え、そこを中心に住宅地ができ、学校や駅が建ってきた

(3)古い普賢寺地区から新田辺駅ができると人口がその付近に移動した

普賢寺小学校は、児童減少から特別制度（校区関係なく通学できる）を設けて児童を募集、学校の存続をはかっている

大住小、松井ヶ丘小は比較的隣接していて、松井山手の住宅地増設により一気に人口が増えたと考えられる

一方で人口増加に伴い建設された団地では現在住民の高齢化が進み、小学校の人数は減少傾向にある

わかってきたことをまとめ、グループごとに発表しました。

地図はグループによっても個性が出ています。それぞれの工夫の違いもありますが、興味関心があることが少しずつ違うこともわかります。

その中でもどのグループの検証からも、地域の小中学校の改革史から、地域のまちづくりの様子や移り変わりを知ることができ、重要なリソースになっていることがわかりました。

地図には、気付きや、わかったこと等、多くの付箋も貼られて、街の様子が実際に視覚からもありありとわかるようになってきました。

今後は、京田辺に在住する知人に対してインタビューを行う予定です。実際に暮らす人達の意見も交え、さらに検証を進めていきます。京田辺に学校はあっても、縁の少ない生徒たち、それでも調べ進めていく中で興味や愛着も少しずつ湧いてきたようです。



2021年6月8日 SSR（高校2年生）－講演－

同志社大学 政策学部 真山達志先生 講演「まちづくりとは何か」

今日は同志社大学 真山達志先生に「まちづくりとは何か」と題して講演を行っていただきました。実際にお越し頂く予定でしたが、3度目の緊急事態宣言でオンラインとなりました。真山ゼミで参加されている「全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」にて立案された政策をゼミ生の2チームの皆さんにも発表していただき、大変貴重な時間となりました。画面越しですが、真山先生はじめ、多くのゼミ生の皆さんと繋がることができましたことに感謝いたします。



真山 達志 先生について
同志社大学 政策学部 教授
専門分野について：行政学

公共政策を行政学の視点から研究しています。公共政策の決定や実施に議会、行政、そして企業やNPOなどの民間の主体がどのように関わっているのか、市民が主体となって公共政策を形成するにはどのような条件が必要なのか、といったようなことが中心的な関心です。公共政策には、福祉、環境、文化、教育といった日常生活に関わるようなものから、外交や安全保障など様々な分野が含まれます。私自身の関心は、特定の分野の政策というよりも、政策をめぐって作られるネットワークの方にあります。ですから、公共政策が展開するところ、どこでも研究対象になります。もっとも、最近は仕事の関係で自治体との関わりが多く、地方での福祉政策やまちづくり政策、あるいは自治体の危機管理政策を扱うことが多くなっています。（同志社大学政策学部教員紹介より）

<https://policy.doshisha.ac.jp/faculty/mayama/info.html>

● まちづくりとは何か -真山 達志 先生

ゼミでの学びの1つとして、自治体を中心とした政策立案、政策形成を勉強しています。「全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」に第一回目より継続して参加してきた実績を活かし、私たちの話が皆さんの今後の学びのヒントになれば、とまちづくりを学ぶ生徒たちにわかりやすく明快にお話を進めていただきました。

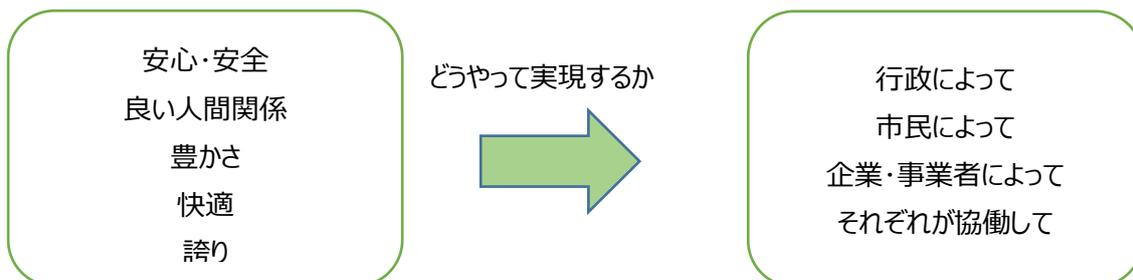
- 「街づくり」「町づくり」ではなく、「まちづくり」という概念

まちづくりにはいろいろな捉え方があります。「まち」というだけでも漢字により意味が異なります。そのため、まちづくりの場合には一般的に平仮名を使います。

まちと近い概念：コミュニティ、地域経済、住民活動

まちづくりは広い意味での「まち」をどうしていくかということです。

- 「まちづくり」とは何か 「まち」を「つくる」とは



最近では機関がそれぞれ取り組むのではなく、それぞれ協働することが注目されています。まちづくりに関わる全ての人が、責任、役割を担うことが大切になってきていることの現れです。行政に政策提言をすることもこうした取り組みの1つだと言えます。

- まちづくりを考える

最初の行動：実際に対象となるまちの特徴を理解する

基本的属性、重要属性の観点から様々な機関、また独自のアンケートや実際の現地視察から情報を得る

特に大事なことは、資料や文字で見える情報と、そこに実際に行き得る情報（空気感など）は全然違ったということが多く、現地視察は大事になってきます。

- まちづくりにどう関わるか

そもそも対象となるまちに関心をもつことが原則、そこから段階的な関わり方があります。

- 1 調べる（重要事項や関連事項）と案外知らなかったことが多い
- 2 今のような課題があるのか、まちの問題を見付ける（このあたりから本格的）
- 3 解決のための提案（ここまではチャレンジできる）
- 4 案に基づいて活動に参加する（本格的なまちづくりの活動）
- 5 そのまちに住む（ここまで来たら最終的なまちづくり）

もちろん最後まで関わる必要はないですが、次のゼミ生の発表でも紹介する提案するということは皆さんも近い将来に実現できると思います。そこから一歩進んで活動に参加することができればより望ましいことだと思います。

- **政策提言** - 真山ゼミ生の皆さん

【全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺とは】

全国の大学生や大学院生が集い、政策を多角的に議論するとともに政策の実施プログラムを作成し評価する、一連の政策過程を射程に入れた「まちづくり政策議論」の必要性を発信し、京田辺市を始め、全国の自治体の活性化に寄与することを目的とする。

令和3年2月の第14回フォーラムでは「シビックプライド」をテーマとし全国より17チームが参加しました。



● チーム a「きょう 田辺、好きになりました」

若い世代の定着率の低さを課題とし、その理由を調査から分析、既存の情報誌が読まれずそもそも京田辺の情報を得ていないことに着目、大学を拠点とし若者が若者のための新しい情報誌を発刊、若者のまちづくりへの当事者意識の芽生え、京田辺の地域特性を理解する機会を得て、それがシビックプライドの向上へ、そこから定住につながることを期待できる。継続的な運用のためには協力店を広げていくという課題はあるが、クーポンの発行という仕掛けは若い世代を惹き付け、地元の事業者の協力も得ることでまちぐるみとなる。情報誌の作り手は主体的に関わること、読み手は情報を元に京田辺を知ること、双方のシビックプライドの高まりが期待できる取り組み。

【真山先生のコメントより】

広報誌を作ることとまちづくりは一般的にすぐ結びつかないかもしれないけれど、住民がまちのことを知ること、興味を持つことは、まちづくりの大事な要素の1つです。まちを知るための手段の1つである唯一の広報誌があまり周知されず若い世代に読まれていないことに注目し、新しい広報誌をしかも主体的に自分たちで作るということでも当事者意識が生まれるという双方に働きかけるプロジェクトです。広報を通じての提案、若い人が関わるだけでなく行政、地元の事業者を巻き込む「協働」という発想、また国が目指す方向でもある新しいICT技術を積極的に活用した先進的な取り組みでもあります。様々なまちづくりの関わり方、手段、手法を示すことができた提案だったと言えます。



- チーム たすき「マッチング 京田辺」

より充実した子育て環境、孤立する高齢者の双方の課題に着目、世代を超えた交流を創出するためのアプリを市の管理の元に立ち上げ、マッチングを行い、子どもを預けたい子育て世代と経験や時間はあるが社会から孤立する高齢者の双方のニーズを解決する。マッチングは、高齢者と子どもの交流から京田辺の魅力が語り継がれる機会の創出ともなり二次的な効果も期待できる。アプリの開発や維持という課題はあるが、レビュー機能で、子育て世代は安心感を、高齢者はやりがい、生きがいを得ることができる。住みよいまちで住民のシビックプライドの更なる向上が期待できる取り組み。1つの問題を1つの政策で解決するという発想を超えて、できるだけ少ない資源、労力で効率的に問題解決をする包括的な問題解決の立案

【真山先生のコメントより】

まちづくりの対象、目的がいろいろある中で、子育て、高齢者の問題を解決することで、皆が暮らしやすいまちを作る、大きな目的、そして複数の効果を同時に狙う立案であったと思います。まちづくりは、むしろ一石二鳥、一石三鳥を狙うことが多く、それこそ協働という概念から様々な立場の人を巻き込むことが望ましいと考えます。この立案では、大学生らしくアプリという新しい仕組みでマッチングすることで、世代間を超えた協働の実現を狙ったものでもありました。

今回シビックプライドがテーマのフォーラムにおいて、チームαは若者に人気のリアリティ番組のタイトルと京田辺をうまく掛け合わせ、若い世代の関心を引く絶妙なタイトルです。当事者意識やシビックプライドの芽生えという明白な効果を想像しやすい立案でした。アイデアが広がった時は、本当にまちのためになるかと自問自答を繰り返したということです。自己満足では終わらせたくないという意志が伝わってきました。一方で、チームたすきもそのタイトルから、マッチングの「マッチ」とまちづくりのまちを掛けたタイトルから、どのようなものをどう掛け合わせるのか想像し楽しい気持ちにもなります。提案のタイトルも受け手としてはその先の内容に対してワクワクした気持ちを抱けるか大事な要素だと感じます。改めて皆さんの発表から、消して提案が一方通行にならないよう、地域の現状、課題やニーズをまずきめ細かなリサーチから明確に読み取るという事前の作業は大変重要だと気付かされました。

生徒たちの率直な質問にも親切に丁寧に答えていただき、実際のまちづくりに関しての立案、そしてそこへどのように関わっていくのか、より現実的に捉え、理解を深め、改めて今後の取り組みへと想像が膨らむ、大変充実した時間となりました。

真山先生、真山ゼミの皆さま、本当にありがとうございました。

2021年6月15日 SSR（高校2年生）－授業－

「まち」について －インタビューを地図に反映させる

今日は、以前から取り組んできた京田辺市の地図から地域を理解するグループワークの続きです。先週の真山先生のお話とゼミ生の皆さんの京田辺市への政策立案を聞いた後なので、京田辺市の現状について理解が一層深まったうえで、地図との再会になりました。また生徒たちは宿題で、実際の住民である知人にインタビューをしてきています。

－インタビューの質問事項－

在住年/家族構成/職業と勤務地（子どもの場合は両親）/行動範囲/地域のイベントの参加頻度/京田辺に住む理由/京田辺への要望

●インタビューの内容を共有する

グループ内でそれぞれのインタビューの内容を報告し合った後、他グループへ移動し、そこではさらに自分のグループで聞いたことも合わせて報告します。

●集めた情報をもとに考察する

インタビューから京田辺はどんなところだろう、バラバラだったインタビューの解答を整理整頓します。



－インタビューの解答から－

田舎で自然が豊かな地域

通勤で大阪、京都市内、奈良、空港とのアクセスが良い

松井山手は新しい地区でもありオシャレな情報が多い

生活必需品は手に入りやすく子育て世代には過ごしやすい

娯楽施設が少なく、独自性のあるイベントがない

若者世代には退屈

●インタビュー内容をQRコードに編集、地図に貼る



西田教諭がインタビュー内容を QR コードに変換、これで地図上に情報として貼ることができます。地図上にスマートフォンをかざせば地域の住民の声が確認できる地図の完成です！京田辺を全く知らなかった生徒が多かったなかで、この作業を進めるうちに、理解がとて深まりました。

並行して進めている課題図書については、毎回、読み進めた箇所
の要約と添削を続けています。計画では来週までに全て読み終え、同
じ課題図書を読んでいるメンバーで本全体の要約に取り組みます。

2021年6月22日 SSR（高校2年生）－授業－

課題図書－プレゼンテーションに向けて準備

講座と並行して、個人では課題図書を読み進め、要約として教員による添削を毎週積み重ねてきました。課題図書は6冊、そのうちの同じ本を選択している生徒たちでグループになり、グループで本の内容についてポイントを整理したのち、プレゼンテーションをする準備としてシートを作成します。プレゼンテーションの形式は自由です。筆者の伝えたいこと、本の要約をはじめ、読んだ個人の意見、そして本からどのようなことが学べたのか魅力を存分に伝えてもらいたいと思います。発表本番は来週の1学期最後の講座で行います。

●課題図書●

城月雅大、園田美保、大槻知史、呉宜児『まちづくり心理学』名古屋外国大学出版会、2018年
リズ・ウォーカー『住みたい街を自分でつくる』三輪妙子訳、築地書館、2017年

落合陽一『2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望』SBクリエイティブ、2019年

五十嵐立青『あなたのまちの政治は案外、あなたの力でも変えられる』ディスカヴァー携書、2015年

保井 美樹「つながり暮らし研究会」全労済協会編『孤立する都市、つながる街』日本経済新聞出版社、2019年

牧村和彦『MaaSが都市を変える：移動×都市DXの最前線』学芸出版社、2021年

【発表準備シートの内容】

- 役割分担（発表原稿・発表資料作成・発表構成）
- 発表構成（導入・本論・結論）
- 発表で最も重要な内容・伝えたいこと・発表の軸
- 使用機材（パワーポイントを使う場合はパソコン、スクリーンなど）



今日は生徒会のイベントである「日本文化の日」、今年は予防対策をして学年ごとに日程を分けて実施しています。多くの生徒が浴衣姿での艶やかでもあり涼やかな教室の風景になりました。生徒たちはそれでも普段と授業と変わらず、グループでの話し合いでは筆者の伝えたいこと、また自分が感じたことなど活発に意見交換し、発表へ向けた準備の役割分担、シートへの記入と、教員のアドバイスを参考にして作業を進めていました。

2021年6月28日 SSR（高校2年生）－授業－

課題図書－プレゼンテーション

今日はSSR1 学期最後の講座となりました。準備を進めてきた課題図書のグループによるプレゼンテーションです。課題図書を読み進めながら、持続可能なまちづくりについて、調べ、講演を聞き、話し合う機会を持ったこともあり、それぞれの課題図書に対しても自分なりの考察が出来ていたようです。各書籍によって違う視点、取り組みがあることを知り、さらに深く興味を持つキーワードが効果的に紹介されました。夏休みを前に、これまでに様々な角度から課題に向き合い努力してきた生徒たちの1学期の集大成です。

●まちづくり心理学

まちづくり心理学とは、より実践的なまちづくりを目指すための革新的なあたらしい学問

キーワード：場所への愛着！

今までのまちづくりに欠けていた「街への愛着」がまちづくりの大きな要素

何のための誰のためのまちづくりか



●孤立する都市、つながる街

都市で生活する人が増える中、本当に都市での生活は自由で生きやすいのか？

都市でのコミュニティの希薄化による「孤立」という問題に着目しその解決法を探る

過去の反省から未来へ、シビックプライドを持ち周囲や地域と繋がることの大切さ

●あなたのまちの政治は案外あなたの力でも変えられる

「政治に関心ある？」

政治は私たちの日常と密接に関わっている、私たちの生活が政治そのもの、私たちの行動こそが政治

市民の目線から、身の回りの問題、自治体の政治や行政をわかりやすく解説

市民が意見を届ける重要性、その方法



●2030 世界地図帳

30年後の世界を想像できる？

これからのテクノロジー、途上国だけでなく先進国の貧困、環境への影響と環境政策、ヨーロッパデジタル



テクノロジーの観点からの議論と SDGs やパリ協定などの国際協調を俯瞰しながら考える

ビジネス、産業、人口、環境、貧困、地図でわかりやすく解説、見通しを立てる

急速なグローバル化、混沌とする現在においての新しい気づき
SDGs の関係は相互作用、自分事として

● MaaS が都市を変える

MaaS 時代に必要な都市のイノベーション、世界主要都市の事例を紹介

MaaS とは、多様な移動手段の快適化

IT を活用したデジタル化、人間中心の街路再編によるグリーン・リカバリーが加速

交通手段が生活に及ぼす影響の大きさ、生活を支える様々なサービス

日本版 MaaS、都市開発と移動サービスを一体でデザイン



● 住みたい街を自分でつくる Choosing a Sustainable Future (前半) ニューヨーク州にある人



口 3 万人の自然豊かな小さな街イサカで、住民たちが創り出している持続可能な暮らしを、エコレッジ・イサカの創始者である著者が紹介

誰もが医療を受けられる、より少ないエネルギーで豊かな暮らし

ファーマーズ・マーケット、教育、ゴミゼロ、省エネ住宅、再生可能エネルギーの最大限の利用、自動車から自転車利用への

シフトなど、アイデアを次々と事業化し、地域の中で経済をまわす
周辺へのよい波紋

● 住みたい街を自分でつくる Choosing a Sustainable Future (後半)

イサカを取り巻く美しい環境、その恵まれた自然を愛し、自分たちで守りたいという気持ちから大資本から水源や資源を守る

ゴミも資源！ゴミを出さない循環

持続可能で豊かな未来のために、イサカの住民が新しく作り出す自分たちの文化

取り組みへの若い人達の関心の高さは発信力となり、さらに

住民の問題意識の高さ、理

解も深まり、行動へと

Bringing it All Together! 世界をより持続可能な社会へ導くことができるという可能性



2021年9月7日 SSR（高校2年生）－講演－

京田辺市の目指すまちづくり – 京田辺市役所企画調整室 吉田啓介氏

4回目の緊急事態宣言の発令される中スタートした2学期でしたが、クラスには受講者全員の顔が揃いました。やはり例年とは違った夏休み、移動の自粛が求められ、地元やまちのことをいつも以上に意識した夏休みであったかも知れません。

今日は、1学期に取り組んだ京田辺市の立体地図作成から得た情報を振り返り、その後、オンラインで京田辺市役所企画調整室の吉田啓介さんと繋ぎ、実際にまちづくりに関わるお立場から京田辺市についてお話を伺いました。

1 京田辺市の立体地図を振り返って気付きや疑問を整理する

- 古くからある、また新しく整備された地域によって、繁栄や人口などの格差があること
- 地図上に設置したバーコードで地域の住民の意見も再確認
- 改めて疑問に感じることをまとめてみよう

2 講演『京田辺市の目指すまちづくり』京田辺市役所企画調整室 吉田啓介氏

お仕事がお忙しい中、この講座のためにお時間をいただきお話を伺うことになりました。



【京田辺市の概要】

- 所要都市へのアクセスの良さ
京田辺市は大阪、京都、奈良、三都市を結ぶ三角形のほぼ中心に位置する
- 小都市
人口7万人を他と比べると
…京都府 252万人/ニューヨーク823万人
同じ規模ではアンドラ/ケイマン諸島→いずれも有名とはいえない！
京田辺市も知名度が高いまちではない
- 人口増加と今後の課題
全国でも珍しく56年連続の人口増加！
新しい住宅地の整備が進んでいるためであり、将来は必ず少子高齢化で人口は減少へ

【京田辺市の総合計画】

- 長きに渡りぶれないまちづくりの都市像「緑豊かで健康な文化田園都市」

豊かな自然に囲まれた誰もがいきいきと暮らすまち

歴史や文化を継承し、関西学研研究都市から想像される新しい文化にも触れるまち

所要都市との便利なアクセスにより、農業や工業、商業などの産業の活気溢れるまち

- 重点プロジェクト

今後 4 年で重点的に取り組むプロジェクト

市長が示す 5 つの重点政策を基に、ワークショップなどの市民の意見を踏まえ、施策体系の分野を横断して、戦略的、重点的に取り組む

I 子育て支援 / II 市民協働による安全安心 / III 支え合い / IV 利点を生かした産業復興 / V 時代の変化への対応

- 重点プロジェクト+1 とこれから

開かれた行政を目指し、SNS の活用、大学と地域との連携など市民と協働し質の高い行政サービス、効率的な行財政運営を行う

やはり市の魅力は豊かな自然環境！紹介したい場所が多く、発信し、そして守りたい

スーパーシティへの挑戦では、特区の制限緩和による新技術の試行、導入（申請結果は本年中）が期待される

- 質問タイム

Q：アクセスが便利と言うこと以外に実際に感じているまちの誇りは？

A：子育てのしやすさ、住みやすさ、小中校の教育の質の高さ、自然等バランスの良さ

Q：スーパーシティ構想の申請が通らなかったら？

A：更地の有効的な活用、開発についてはいずれにしても進めていく方針

Q：コンパクトシティへの実際の取り組みは？

A：市内の公共交通は充実していない現状、移動手段のない人達へのアプローチが課題

スーパーシティ構想の中で、自走運転バスなど新しい技術の元での運用も視野に

Q：災害とコロナが重なった際の対策は？

A：避難所対策、自主防災の訓練を定期的に行っている

Q：新市街地、学校の新設、未来の人口減少における施策は？

A：人口 8 万人計画を立てまちづくりをしている中で、新しい施設を作る際には必ず古い施設の再編等も併せて計画に盛り込んでいる

印象深かったことは、吉田さんが実際に子育て世代として京田辺市で生活し、安全で豊かな自然環境や充実した教育環境、他の地域との交通のアクセスの良さなど、その良さを実感されていること。そしてまちが好きだという気持ちが私たちに伝わり、それがまた私たちが京田辺に益々関心を寄せる大きな理由になりました。

今日は貴重なお時間をいただき、改めて京田辺市について学ぶ機会を持てたことに心から感謝いたします。ありがとうございました。

2021年9月14日 SSR（高校2年生）－授業－

モビリティの改善－レクチャー

持続可能なまちづくりを学ぶ一環としていくつかのフィールドワークが計画されていますが、現在のところは新型コロナウイルス感染拡大の状況から引き続き延期となっています。その中で講座は様々な工夫をしながら進めています。前回のオンラインでの講演では、京田辺市役所企画調整室の吉田さんにお話を伺った際に2つの課題について、高校生の視点からアイデアを出して欲しいというご依頼を受けました。京田辺市の「モビリティの改善」「ゼロカーボン」についてです。今日はその1つ目の課題「モビリティの改善」について、西田教諭と佐藤教諭の2人からそれぞれ課題解決のためのヒントとなるレクチャーを受けました。

課題1：モビリティの改善－京田辺市の交通を改善するためのアイデアを考えよう

●インセンティブを使った課題解決・・・佐藤友亮教諭

例えば課題解決のためによく使われる手段：啓発のためのポスター

→デザイン、洒落を効かせる等、人々の関心を集める工夫！

★影響力を与えようとした時

行動に無関心な人に呼びかけるよりも、誰もが自然とその行動を選択するような仕組みづくりをする

→多様で多数の人を動かす、行動を促す仕掛けが必要！



行動を促すためにはインセンティブという考え方は有効的な方法

事例1：4R（Refuse/Reduce/Reuse/Recycle）レンジャー「ゴミ削減」

ポスターを使った啓発ではなかなかゴミの削減には繋がらなかった…

→ゴミ袋有料化、ゴミの定額有料制の導入

事例2：航空会社マイレージ制「顧客の確保」

→次回のフライトがマイレージポイントで割引になる制度の導入

インセンティブ＝誘因

社会活動のある行動に向かわせるための理由として、最終的には金銭面で有利になるような方向で行われる方策

- 5つの誘因
- 1 物質的「お金・モノ」
 - 2 人的「人間関係」
 - 3 評価的「評価・昇進」
 - 4 理念的「企業理念・価値観」
 - 5 自己実現的「夢・使命感」

その対象となる人や組織に対して、適切な時期に効果的な仕掛けをしよう。



●コンパクトシティの可能性 …… 西田喜久夫教諭

陸上交通機関を比べてみる

バス・自動車・自転車・バイク・セグウェイ！？

メリット：好きなところに好きなときに移動

運航経費が安い

デメリット：自動化が難しい

1度に運べる人数が少ない

電車・モノレール・地下鉄・ロープウェイ

メリット：交通状況の影響受けにくい

自動化しやすい

一度に大量に運べる

デメリット：自由さに欠ける

運行経費が高い

既存の交通機関は、電車の路線が敷かれ各駅を起点に郊外へ伸ばしていく（どんどん外へ広がる）

★過度な自動車依存を抑制し公共交通を有効的に活用するためには

電車の路線を拡大してまちを郊外へと拡大させるのではなく、公共機関や買い物など人々の日常生活圏をコンパクトに設計し、徒歩や公共交通機関で効率的に移動するまちづくり

コンパクトシティというまちづくり

事例 1：バスのサイズを 2 種類に

従来のバスに加えて、小型車両を導入し、運行経費と CO2 排出量を抑えつつ、人々の乗りやすさや親しみやすさを実現

事例 2：Park & Ride

まちの近郊に駐車場を設け、そこから市街地へは地域交通と連携

コンパクトシティ

高密度で近接した開発形態

公共交通機関でつながった市街地

地域のサービスや職場までの移動の容易さ

効率的で持続可能



地方都市でのコンパクトシティ構想でのメリット

- 1 人口減少への対応：一定の範囲内で居住すれば、子育て、教育、医療、福祉など、どのサービスも効率的かつ安定して提供、まちの再活性化
- 2 財政難への対応：道路や上下水道の整備など、公共施設の維持管理を合理的に実施
- 3 防災：集住により、迅速かつ効率的な避難が可能
- 4 環境：過度に自動車に頼る状態から公共交通機関利用へとシフトできれば、CO2 の排出低減へ

まちづくりの中で、人々が公共交通機関や自転車などをかしく便利に使う方向へと自発的に転換していくことを促すことは、1 つではなく多くの課題解決に繋がります。

今回は、生徒たちそれぞれが京田辺市のモビリティ改善についてのアイデアを発表します。

2021年9月21日 SSR（高校2年生）－授業－

京田辺市モビリティの改善－プレゼンテーション－

これまで京田辺市について学び、その特徴や課題について理解を深めてきました。今回は問題解決方法、モビリティ改善のいくつかの事例を学び、今日は、京田辺市の「モビリティの改善」について、1人1人が提案するアイデアについて事前に提出したスライド等で発表してもらいます。発表を聞く側にいる生徒たちはそれぞれ評価シートを記入しながら、発表に対する疑問点やできればその解決策まで考えてみましょう。

【プレゼンテーション】

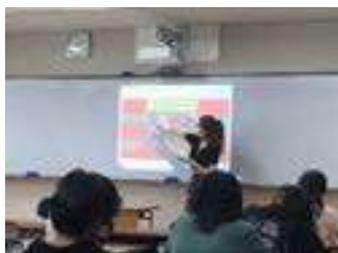
●三山木のスーパーとその周辺の地域を結ぶ小型コミュニティバス

自家用車が必要なルートでの小型バスの運用

●レンタル E-Scooter/レンタル E-Bike

安い・自由・早い・使いやすい・CO2 排出がない、日常の足に

●Bus Rapid Transit



ハイブリット・チケットブース・バス専用レーンと乗降スペースの整備で誰もが利用しやすく環境にも配慮した交通

●運転代行システム

高齢化で生じるアクセスの不便さを、地域貢献をしたい協力者を募り、低価格の運転代行システムで解決

●2種類のバスサークルライン

郊外と市街地をコミュニティバスで結び、市街地は乗り換え自由のバスサークルラインを運行

バスの駅にはレンタサイクルや駐輪場を整備し利便性を高める

●Mobike

安い・便利・高齢者でも自転車なら利用可能、電動自転車の普及にも

●City内・City周辺専用路線バス

あまり交流のない農村地区と市街地を結ぶルートとして住民の必要性に応じてバスを運行させる

●京田辺市コンパクトシティ構想

既存の道路に、自転車専用道路とLRT線路を整備

●シェアサイクル

便利・安い、まちのいたるところにシェアサイクルステーションを設置

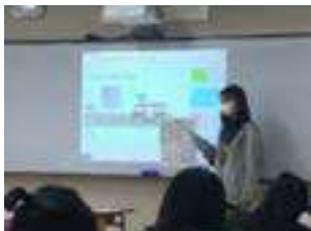
●グラススキー-in 甘南備 Mt.

京田辺の甘南備山に地形を活かしたグラススキー場をつくり、駐車場とバス路線を整備

●自動運転バス



郊外と市街地に、自家用車の代わりとなる日常の足として自動運転巡回バスを運行



利用者には IC カードでの買い物割引サービスを付与し、利用を促進

●ピストンバスとシェアサイクルで乗り継ぎサポート

JR-近鉄の駅をピストンバスで結び、乗り換えを効率的に利用者増加へ
利便性をさらに高めるためにシェアサイクルを各駅に整備

●高齢者向けバス

高齢者向けのイベントに合わせたり、地域密着の日常の足として便利な
ルートを選定し、孤立した地域間、市街地までを結ぶバスの運行

●電動自転車&電動スクーター

人件費も安く、環境にも良い、そして便利な、電動自転車と電動スクー
ターのシェアステーションを各駅、まちのいたるところに整備



【ディスカッション 疑問をぶつけてみよう】

学んできたことに加えて、それぞれの経験や訪れた場所などの取り組みも参考に 1 人 1 人違った案が
出ました。発表の後は、グループで集まり、自分たちの案を振り返り、疑問や問題点をあげて、さらなる改
善策を模索しました。

「高齢者がアプリを活用して、電動自転車やスクー
ターを使う？」

「シェアサイクルなどの管理に新たな人件費はどのくら
いかかるだろう？」

「交通ルールが整備されていない中、電動自転車や
シェアサイクルの安全性は大丈夫か」

「バス乗車率が低い場合の費用の負担はどこか？」

「電動自転車の管理、充電、故障等、トラブル対
応で人件費大幅に増えそう」

「京田辺の起伏のある地形はシェアサイクルやレンタルサイクルに不向きでは？」

「シェアサイクルなどのステーションの場所の確保（駅前など）が難しそう」

「シェアサイクルや電動自転車の普及のためにはサイクリング専用道路の整備がまず必要ではないか」



どのグループでも活発に意見が出されていました。疑問点などは多く聞かれる中で、それぞれの解決策
を打ち出すには発想の転換がポイントになりそうです。それぞれのグループの話聞いた教員から「行くとい
うベクトルに加え、将来的には来るというベクトルも増えるのでは？」というアドバイスもありました。例えば、
訪問診療など訪問でのサービス、配達のさらなる普及 など、そういった社会に備える次世代モビリティの
整備も含めて発想を柔軟にする必要があります。

2021年9月28日 SSR（高校2年生）－授業－

ゼロカーボン－レクチャー

先日のオンラインでの講演では、京田辺市役所企画調整室の吉田さんにお話を伺った際に、2つの課題について高校生の視点からアイデアを出して欲しいというご依頼を受けました。京田辺市の「モビリティの改善」「ゼロカーボン」についてです。今日はその2つ目の課題「ゼロカーボン」について、西田教諭と佐藤教諭からそれぞれ課題解決のためのヒントとなるレクチャーを受けました。

課題2：ゼロカーボンシティを目指して

●ゼロカーボン、ゼロカーボンシティとは・・・西田喜久夫教諭

「京田辺市2021年2月12日ゼロカーボンシティ宣言」

2015年に合意されたパリ協定を受け、国は脱炭素で持続可能な社会への転換を実現するために、これまでの枠組みにとらわれない社会的および経済的なシステム全体の転換が早急に必要であるとして、2020年に「2050年までに国内の二酸化炭素など温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする」ことを宣言しました。そこで京田辺市では「緑に包まれた美しいまち」京田辺を次世代につなぐため、2050年までに市内の二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を山城地域では、最初に宣言しました。



→クラスでは、スマートフォンで参加可能なクイズを使い、ゼロカーボンについて正しい知識を確認していきました。

「カーボン・ニュートラル」

カーボン、つまりCO₂の排出について、人間は生活する限り多少減らせてもゼロにすることはできません。つまり、まずはエネルギーシフト等で排出量を減らす、そして木を植える、また新しい技術や科学の力などを活用し、排出した分のCO₂を吸収する仕組み作りを進める必要があります。

●ゼロカーボンへ向けての具体例・・・佐藤友亮教諭

主な3つの対応として、再生可能エネルギーへの転換、省エネと吸収に向けて、そしてカーボン・オフセットが挙げられます。

「再生可能エネルギー」

自然界によって補充されるエネルギー全般を指します。自然の



力で定常的に補充されるエネルギー資源より発電などを行ない、しかも低炭素、永久的に使用することができます。風力/水力/太陽光/地熱/バイオマス等。

それぞれに優れた点、問題点があるので、その土地、状況に合わせた選択が必要です。日本は他と比べて、総電力のうちに占める再生可能エネルギーの割合が低く、再生可能エネルギーに転換できていない現状があります。

「再エネポテンシャル」

環境省の試算では、我が国には電力供給量の最大 2 倍の再エネポテンシャルが存在します。それなのに、発電コストが高い、安定供給が困難、エネルギーの備蓄が困難といった問題があり、再生可能エネルギーの最大限の導入に向け、課題をクリアしながら、着実に前進していく必要があります。

→経済産業省資源エネルギー省「なっとく再生可能エネルギー」サイトなども参考に学びを深めましょう。

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/

「省エネと吸収」

国内でも 2016 年の電力自由化を受けて、どの電力会社を使うかは消費者が選択できるようになりました。電力の供給も、地中熱利用、ヒートポンプ、小水力、温度差熱利用、コージェネレーションなどの大きな設備を必要としない小さなエネルギーの可能性も広がっています。京田辺市でも「再エネポータルサイト」を設置し補助金等を案内、再エネを促進しています。また、コージェネレーションシステムにおいては、同志社大学理工学部との産学連携にも取り組んでいます。

「カーボン・オフセット」

温室効果ガス排出量の削減努力を行ったうえで、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った分の削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方です。排出量の全量をオフセットする「カーボン・ニュートラル」が注目されています。日本では、ふるさと納税の寄付の返礼品として、バイオマスエネルギー利用による二酸化炭素削減量でカーボンオフセットできる『オフセット・クレジット（J-VÉR）』を設けている自治体もあります。

●京田辺市にゼロカーボンの提案を検討してみましょう



生徒たちは講義を受けた後、世界や他の自治体の取り組みから、京田辺が目指すゼロカーボンシティに向けてどのような取り組みが向いているのか再びグループで話し合いました。これには、今まで調査してきた京田辺市の様々な特徴、まちづくりについて取り上げた課題図書、京田辺市役所の吉田さんの講演、また昨年の講座受講生による環境問題をテーマとした卒論集なども参考にしました。それぞれの対策をまとめて次回の講座で 1 人 1 人発表します。

2021年10月5日 SSR（高校2年生）－授業－

京田辺市ゼロカーボン対策－プレゼンテーション

これまで京田辺市について学び、その特徴や課題について理解を深めてきました。今回はゼロカーボンの知識や問題解決のヒントとなるいくつかの事例を学び、今日は、京田辺市のゼロカーボン対策について、1人1人が提案するアイデアについて事前に提出したスライド等で発表してもらいます。発表を聞く側にいる生徒たちはそれぞれ評価シートを記入しながら、発表に対する疑問点やできればその解決策まで考えてみましょう。

【プレゼンテーション】

● Rental electric car

ドイツで運用されている「car to go」を参考に、市内で気軽に自由に利用できる電気自動車のシステムの導入を。

● 自動車道を無くす！

市内の移動手段を公共交通機関・自転車へシフト。自動車道を無くし、自転車専用道路の整備と自転車移動の安全性も確保。低コストで実現可。

● バイオマス発電

家庭から出るあらゆるゴミを資源としてエネルギーを作り出し、市内のバスの運行の全てをまかなう。

● ローカルフードシステム

わざわざ遠くから食べ物を運ばず、安全で新鮮な食物で地産地消を。輸送で出るCO2削減、フードウェイスト削減、健康向上。

● 京田辺を Zero Carbon City にするために

太陽光発電に対するクーポン発行や補助金支給でインセンティブを手厚く。

市内の公共機関、ガソリンスタンドの全てをバイオマスエネルギーへシフト。

● エネルギーの使い方・つくり方

京田辺市の電気は京田辺市でまかなう！LRT、自転車利用の促進、山を活かした風力発電の利用。森の管理を兼ねたバイオマス発電システムの導入。

● ヒートポンプの導入

国連のEmissions Gap Report(EGR)2020では、ライフスタイルの変化、CO2排出削減は必須であると言及！家だけでなく、市内の工場など大きな施設でヒートポンプを導入し電気の有効活用を進める。

● 電気バス・タクシーの導入

人々の利用機会の多いバスやタクシーから電気自動車へ全てシフトする。電気エネルギーは太陽光発電を利用し、太陽光電気ステーションを設置。

● Groceries on the go

アメリカで運用される仕組みを参考に、地元の農産物を予約、買う、寄付する



など、地産地消で安全で環境に配慮した食糧の循環の仕組み作りを。

●Zero Carbon

自動運転電気自動車が市内を巡回することで市民の足に。交通量、自動車の利用の抑制を。



●緑のカーテンでカーボン・ニュートラルへ

広島大学でも気温を下げる効果が実証されている緑のカーテン。市のヘチマやゴーヤなどの無料配布によってあらゆる場所での実施促進を。

●自転車利用者が暮らしやすい街

自転車専用道路のさらなる整備と駐車を減らし駐輪場へのシフトを。自転車の利用者促進で健康向上、CO2削減を！

●水力発電

パラグライの水力発電比率 100%をヒントに、京田辺市の降水量の多さと山を利用した水力発電の整備を。モデルタウンとなり京田辺市から全国へ！

●小水力発電

いつでもでき天候にも左右されない小水力は、大小問わず川や農水路の多い日本で大きな可能性があるエネルギー発電。大きな設備は必要がなく、導入費用はかかっても長期間使用可能。



●Zero Carbon へ向けての対策

市内の事業者などにエネルギー消費効率ステッカーを配布し、効率を上げることへの意識向上を促す。同時に電気自動車の普及に向けた取り組みを。

●レンタル自転車・スクーター

京田辺市内のレンタル自転車、レンタル電気スクーターの普及を。駐車場や駐輪場を探す手間をなくし、スムーズに簡単に思い立ったら利用できるシステムを整備する。

【ディスカッション 疑問をぶつけてみよう】

ゼロカーボン、それぞれが生活する上で「意識すること」が最も重要だと考え、そのためにも、住民を巻き込むような大胆な政策が必要だと考えている生徒たちの意見が目立ちました。大胆な政策を実施する上で、市民の理解を得るための話し合い、また費用面が課題となることが考えられます。発表を終え、生徒たちはグループで、各自の発表に対して疑問や意見を持ち寄りました。教員より以下のアドバイスをもとに意見を整理していました。



発表の内容を整理するポイント

- ・発電方法の変更→エネルギーの作り方
- ・交通方法の変更→エネルギーの使い方
- ・自然の利用→エネルギー効率
- ・キャンペーン→意識改革

2021年10月19日 SSR（高校2年生）－授業－

フィールドワークに出かける前に－心得

京田辺市の住み続けられるまちづくりを学ぶ一環として「モビリティの改善」「ゼロカーボン」についても、生徒たちがそれぞれの改善策を考え話し合いをしてきました。次のステップとして、いよいよ実際にいくつかの拠点を視察し、現地の方にお話を伺うことになりました。「百聞は一見に如かず」「Seeing is believing」ということわざの通り、百回聞くよりも、自分の目で1回見た方が確かです。実は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、この学年の生徒たちは高校に入学してから初のフィールドワークとなり、とても楽しみにしている学びの機会でもあります。今日と次回の講座ではフィールドワークに向けた準備を進めていきます。

●バイアス

見え方は、傾向・偏向・先入観などにより経験値や思考で人によって様々です。

アンカリング効果：認知バイアスの一種で、情報量が限られている状況下において、先に与えられた数字や情報を基に検討を始めることにより、その後の意思決定に影響を及ぼす傾向
同じ12,000円でも 12,000円 ←→ 割引56,000円 12,000円 印象全然違う！

→京田辺市も誰から見るかにより、そのイメージや実際はまた違うものだということを理解しましょう。

●フィールドワークの注意点

・明確な目的を持つ ・計画を立てる ・先方とアポイントを取る

→自分たちで計画的に準備！

●下調べ

・性質 ・特徴 ・見たい場所 ・前提となる知識

→調べられることは事前にきちんと把握してから臨む！

●ビジネスマナー

・TPO ・あいさつ ・インタビューの際の振る舞い、座る位置

→生徒たちは学んだことを早速実践、お互いに挨拶をしたり、名刺交換をしたり、普段の生活ではしない作法などに戸惑いながらも新しい挑戦をしていました。下調べ等の準備はもちろん必須ですが、そのうえで相手に失礼な印象を与えない、配慮した態度は、インタビューを成功させる重要なポイントだといえます。



フィールドワーク4つのコース

1 普賢寺コース：普賢寺ふれあいの駅（11月9日）

2 松井山手コース：松井山手ローズタウン（11月9日）

3 京田辺市コース：新田辺東商店街（11月16日）

4 甘南備コース：環境衛生センター エコパーク甘南備（11月16日）

2021年11月2日 SSR（高校2年生）－授業－

フィールドワークに出かける前に－準備

いよいよ来週からフィールドワークが実現します。2つのグループに分かれて、2週にわたり2つの行き先、合わせると4箇所のリサーチを行います。グループごとに行き先の希望を話し合い、重なった場合にはそこになぜ行きたいのか熱意のあるプレゼンテーションを行い、教員が判定することになっていました。実際に現地の視察やインタビューを行う前に、グループに分かれて、行き先を改めて知り、行く前の具体的な準備に取りかかりました。

●役割分担

リーダー：最初の挨拶、最後の感想や御礼

タイムキーパー：時間の管理、コントロール

ナビゲーター：道順など把握

アポインター：行き先の担当者と連絡、アポイントを取り必要事項を確認

礼状係：FW後の御礼

記録係：写真などFW中の記録を取る

プレゼンター：FW後日、FWの内容、学びをクラスで発表



●アポイント

アポイントの担当の生徒たちが、先方に電話をかけアポイントや当日の確認事項などを伺いました。このような経験が初めてだという生徒たちがほとんどでしたが、緊張しながらもきちんと丁寧に役割を果たしていました。改めて実際に何うという実感を抱いたようでした。



アポイントを取る生徒

フィールドワークのワークシートに、各役割の仕事や当日のスケジュール、先方に伺いたいことなども整理して書き込み、準備は完了です。当日が楽しみです。

2021年11月9日 SSR（高校2年生）－フィールドワーク－

フィールドワーク

① 普賢寺コース②松井山手コース

フィールドワーク1回目当日。2グループに分かれて、教員が各1名ずつ付き添い2箇所をそれぞれのグループが訪れました。松井山手を訪れたグループの様子を紹介します。松井山手は、学校が位置する場所から北西へ6、7キロ先に位置する新しい開発住宅地です。学校の生徒、教員にも住民の多いエリアです。どのように宅地開発が行われてきたのか、新しい街はどのようにしてできるのか、興味津々の生徒たちが向かいました。

【松井山手コース】

●学校から最寄りのJR学研都市線「同志社前」から「松井山手」へ

このコースに参加した生徒は8名。案内、そして様々な質問に答えて下さったのは、京阪電鉄不動産株式会社事業推進部の杉田将也さんです。松井山手の開発として東ローズタウンの開発と管理に携わるお仕事をされています。「もっとこうであつたらいいのに」という考えと実際の相違があっても、それをぜひ不思議がってくださいとおっしゃっていました。



●東ローズタウン

松井山手駅を中心として面積161万㎡、全計画戸数は約4500万戸のビックタウン

「京阪電鉄が開発しているまちなのに、京阪電車が通っていない!？」

京阪が購入した土地だったが、もともと在来線があったJRに路線の延長と新駅の開設を依頼した珍しい形、無駄なお金をかけずに柔軟な開発を行っているということでした。

「コンセプトは太陽と緑と健康の街」

エリア内の商業施設では、まちづくりを始めてから大切にしていることを伺いました。『このまちに暮らす人、そして訪問する人が街に愛着を持ち、生活を楽しみ、人生を楽しみながらともに生きていけるまちをめざそう』と、これまで培ってきた住宅開発のノウハウを結集して作られています。またこの場所は、京阪が土地を所有、施設の運営会社に土地を貸すという事業用定期借地という方法を取り、ラーニングコストも抑えているそうです。



「高速道路の上に建てる!？」

このエリアには大きな高速道路が通っています。その真上にかかる橋のような土地はもちろん国の持ち物でしたが、大変な交渉の末、その土地に温泉施設を建てるという異例な取り組みを行いました。



高速道路の真上に温泉施設があるのは大変珍しいそうです。水春はとても人気の施設ですが、このような秘話があることは知られていません。

「全部正解です」

周りは既に家が建ち並んでいるのに不自然に空いている土地があります。「みなさんならここをどうしたいですか？」という問いに、「カラオケ」「幼稚園」「ドックラン」などなど生徒たちの答えに対して、それぞれの発想が全て正解だと関心を抱いてくださいました。こういった残宅地は後々柔軟な対応が可能ないように必要だそうです。



限られた時間の中で、生徒たちと東ローズタウンと一緒に歩き、わかりやすい解説と、また多くの質問にも答えて下さった杉田さん、本当にありがとうございました。まちづくりに携わることで、住む人たちの暮らしを豊かに、そして向上させるために貢献したいという、お仕事に向かう気持ちが伝わってきました。そして今後のまちづくりは、時代に乗りつつも持続可能なものであることが必然だとして、新しい発想がとても重要だと話して下さったのが印象的でした。今回は、京田辺市で発展し続ける松井山手エリアのまちづくりについて、開発されている会社を通して学ぶ貴重な機会となりました。

2021年11月16日 SSR（高校2年生）－フィールドワーク－

フィールドワーク

① 甘南備コース②新田辺コース

フィールドワーク2回目当日。今回も2グループに分かれて、教員が各1名ずつ付き添い2箇所をそれぞれのグループが訪れました。新田辺駅東エリアの商店街を訪れたグループの様子を紹介します。このエリアは、近鉄電車の新田辺駅、JRの京田辺駅が並び、ほぼ並行して走ります。近鉄新田辺駅周辺は、[1928年](#)、JR京田辺駅はさらに古く当時の田辺駅として1898年に開業しています。開業以来、西側を中心地としながら [1960年代](#)から東側にも住宅や団地が開発されました。京都方面から通学する生徒たちにとっては、乗り換え等で馴染みのある駅ですがあまり下車する機会はないようです。かつての賑わいを失ったエリアで、その維持や復興について、そこに携わる方達がどのように考え、努力されているのか実際にお話を伺う貴重な機会となりました。

【新田辺コース】

- 学校から最寄りの JR 学研都市線「同志社前」から 1 駅「京田辺」へ



このコースに参加した生徒は 6 名。案内、そして様々な質問に答えて下さったのは、新田辺東商店街（キララ商店街）で長年続くカメラのトモミ堂代表田原剛さんです。キララ商店街の理事長としても商店街だけでなく地域のために貢献されています。「『まちづくり』を意識し始めたのは 20 代から 30 代でした。自分にとっても子どもの頃に温かく大切な居場所だった商店街を同じように未来の子ども達に残すために地域に根ざした活動をしています。」とおっしゃっていました。

● 商店街

「商店街」の定義：皆で力を合わせて、まちや地域を良くしていくとする組織

個々のお店の集合体だけでは「商店街」とは言えません。日本全国にある「商店街」はその地域を良くしていくとする人たちの組織であったことは新鮮な再確認でした。

「危機感から始まるまちづくり」

危機感を持たないと人は動かない！大型集合店舗やインターネットの普及により商店街のニーズが減り、活気が消え、店主の高齢化も伴い存続の危機に。そこで良き古きを残したいという意志をもったメンバーが、『次の世代に誇れるまちづくりを目指し』活動しています。



● 仲間作りとファン作り

「自発的な意識改革は、街が活性化する大きな機動力」

店主さんたちの意識を変えるために話し合い、そして近隣の大学生とも多くの取り組みを一緒にすることで、皆のモチベーションが上がりました。商店街にとっての儲けとは、お金ではなく、信じるもの＝ファンであり、仲間、友達を増やすことが一番大切なこと。お金をかけずに人の心を動かす、興味をもってもらう、様々な仕掛けにより、仲間の意識が自発的に良い方向へ変わっていききました。

● 様々な仕掛け

商店街オリジナルキャラクターの誕生「キララちゃん」

全国公募からホームページと商店街で投票をして決定しました。募集の際のキーワードは「温・Co・知・新」、ビジョンは「未来に誇れるキララ商店街」です。将来を担う若いお母さんお父さんたちに来てもらいたい、好奇心旺盛な子ども達が前向きにいられる場所でありたい、みんなの大切な存在になりたい、それらの象徴が永遠の 4 歳キララちゃんです。キャラクターの力を借りて、商店街を知ってもらい、愛着をもってもらうきっかけになっています。

キララ 2 時間 ISU 耐久レース「イス 1 グランプリ」

知る人ぞ知る、これは事務用の椅子で真剣に街を駆け抜ける世界大会です。こんなことできたら楽しいやろうな、という発想から生まれたレースです。ロイター通信にも取り上げられ、レース動画は 400 万回再生越えとなり、世界中からメッセージも寄せられるようになりました。「キララ 2 時間 ISU 耐久レース」を略して「キララ 2(に)I(会い)耐(たい)」とロゴ合わせまで、楽しみながら、思いを乗せる工夫も忘れない、そのような熱意ある仕掛け作りに感心しきりでした。

商店街の会議室でお話を伺いたくさんの質問にも答えて下さった後、商店街を一緒に歩いていただきました。お話を聞いた後では、ぜひともかつての活気を取り戻して欲しい、商店街にしかできない、人々の心のつながりや、頑張ろうと思うことのできる温かいコミュニティの復活を強く願う気持ちに変わっていました。生徒たちもまた、田原さんのような方達が今日お話を伺ったように、様々な工夫やアイデアでまちづくりをされていることに大変刺激を受けた様子でした。実際に田原さんもそこにご尽力されていたように、お金をかけずに「人の心を動かす」ということは、まちづくりでなくとも、どんなことをする時にでも一番大切なことだとメッセージを送ってくださったことがとても印象に残りました。今日は貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。



←来年の ISU1 グランプリが開催されますように

2022年1月11日 SSR（高校2年生）－授業－

フィールドワーク 報告

3 学期、年明けの初講座となります。前学期に4つの研修先を訪れた生徒たち、今日はそれぞれを訪れたグループに分かれて、訪問先で知ったこと、学んだこと、印象に残ったこと、そこから考えたことなどを振り返りました。そして、その内容をポスターにまとめ、写真なども交えながらグループごとにクラス全体に報告しました。そこに行っていない生徒たちも、訪問した生徒たちと同じように情報を共有しました。



【振り返りと情報共有】

4つの訪問先の報告より

●松井山手エリア

京阪電鉄不動産が開発に関わる比較的新しいエリアであり、「太陽と緑と健康の街」というコンセプトの元、それぞれの訪問先では近隣の住民が喜ばれる場所としての工夫が感じられた。特に子育て世代にとって、短期的にはではなく、そこに住みたいと思わせる開発の工夫と未来への展望があった。

●甘南備エリア

訪れた「京田辺エコパークかなび」は、ゴミの量を減らし循環型社会の形成を目指す。市が施設を提供し、完全な市民ボランティアが運営する「市と市民一体となった」組織。ゴミ処理場では、資源のリサイクルのためには捨てる側が知らないといけない知識が多くある。まちづくり＝ゴミ処理、この2つは深く関係していると実感した。

●新田辺エリア

単なるショッピングエリアとの違い、商店街の定義が「皆で力を合わせて、まちや地域を良くしていこうとする組織」であることを知る。新田辺東商店街では、未来に誇れる、ファン（信じるもの）をつくる、意志



を受け継ぐ、ことをモットーにただ外から人を呼ぶことだけに固執せず、温かなコミュニティや新しいアイデアの創造で活性化を模索している。メディアを活用した周知活動の努力とその影響力も知った。



● 普賢寺エリア

目的地の「ふれあいの駅」は京田辺中心地からは、バスの本数も少なく、またかなり歩く場所にある。産地であるお茶、周辺農家から届く新鮮な野菜を中心に販売され、直売所、休憩所として親しまれている。充実した産物の移動販売というアイデアも湧いた。

抹茶アイスもすごく美味しい！

【各グループのポスター】



振り返りと、共有の様子では、どのグループも活発に意見が飛び交い、それぞれのグループが訪問先での探求を楽しみ、新しい発見があった様子が伝わってきました。そして、例えば施設の特徴などで訪問時には気付かなかったことも、振り返りの中で理解を深めている場面もありました。

今後は、こういったエリアの特徴や、実際に現地で運営されている方達の工夫や苦勞といったお話から、京田辺市のより良いまちづくりのための自分たちのアイデアを検証し、さらに具体性のある提案の発想へと繋げていきたいと思えます。

2022年1月25日,2月1,8,15日 SSR（高校2年生）－授業－

京田辺市への提案 –草案から仮発表まで

Online

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、1月25日から3学期の講座は全てオンラインとなってしまいました。SSRでは、リモートによるオンタイムで生徒たちと繋ぎ講座を継続しています。取り組んでいることは、フィールドワークを経て、より良いまちづくりのための自分たちのアイデアを話し合い、検証し、いよいよこの学

年の最終的なゴールである京田辺市への提案としてまとめることを目指します。



【レクチャー】

オンタイムのリモート講座は、Teams Meeting を使うことになりました。提出物や、情報の共有も全て Teams のグループ内で行います。教員よりレクチャーを受け、生徒たちそれぞれが十分に使いこなせるようになりました。

【提案のためのパワーポイント作成にあたって】

自分たちの知ったことや、学びをまとめ、情報を共有するための資料作りの機会は今までにもありました。課題図書の要約の発表や、まちづくりのための自分のアイデアの発表などです。ここでは、京田辺市に提言するにあたり、相手に理解し納得してもらうための資料作成が必要となります。そのためポイント、特に資料の構成について、教員がパワーポイントの例を挙げて紹介、解説しました。

● パワーポイントの構成 ●

タイトル→京田辺市の方針→京田辺市の方針の具体的説明→京田辺市の既存の具体的な取り組み→自分たちの制作のベース→自分たちの政策の提言→政策提言の具体的説明→提言を実現するとどうい効果が見込まれるか→感謝と参照情報

9 ページに渡る内容を、これまでの話し合いを踏まえて、グループ内で役割分担をしながら進めていきます。とくに重要なのは、提案の具体性、そしてどのようなメリットをもたらすかという点についてわかりやすく訴えることができるかです。

【エリアごとに分かれてアイデアを検証】

フィールドワークを実施した 4 つのエリアごとのグループに分かれ、提案できることについてアイデアを出し合い、検証し、まとめます。エリアの特徴や課題を理解し、熱心に意見を交わしています。話し合いの共通のトピックとなっていたことは、若者の気軽な参加の実現、子育て世代へのアピール、京田辺だからその取り組みといった内容が目立ちました。また、アイデアを出し合うと同時に、他の地域や、既に取り組みのある事例をたくさん調べる必要性を感じ、それぞれが自宅で情報収集も続けていました。



【各チームの草案】

●チーム A1（松井山手エリア）

京田辺市の市政が注目する子育て世代をターゲットとしたフリーマーケットの定期開催を中心として、次世代のためのエコ活動の一環も担う。またふるさと納税の返礼品の協力企業の協賛も得て、より広くこうした京田辺市の活動を発信していく。

●チーム A2（普賢寺エリア）

単なる田舎ではなく、自然豊かな郊外として活かし、全世代が憩える広場を設置する。地元の店舗による親子カフェ、フリーマーケット、屋台、そしてイベントを定期開催する。京田辺市の過疎地域の活性化と同時に京田辺市の既存の産業の発展と魅力を発信していく。

●チーム B1（甘南備エリア）

まちづくりで大切な要素である市民参加とゴミ問題。甘南備のゴミ処理場やエコパークと協働する学生中心のボランティア団体を組織する。その活動やアイデアから次世代の環境を守るライフスタイルの提案や実際にゼロウェイストを目指すまちとして、京田辺を内外に発信していく。

●チーム B2（京田辺駅周辺エリア）

空き店舗を利用し、多世代の交流、人々が安心して勉強や仕事のできることを目指したコミュニティスペースを創造する。人々の交流や情報交換、また地域の一員としての自覚の芽生え等を通じて地域の、また京田辺市全体の活性化を図る。

生徒たちはまとめた資料などを設けられた期限毎に WEB 上で提出し、教員がアドバイスや質問を受け付けるために講座の日程外にも、ミーティングを設定して、オンラインながらもいつでもオープンな話し合いが可能な環境でした。パワーポイントに提案としてまとめ、Aチーム、Bチームで互いに発表し合い、質問や疑問点など、どんどん出し合いました。提案をよりブラッシュアップするためには、教員によると「ぶっ潰し合い！」が必要、問題点を気付く限り挙げて修正、改善を行きましょう。そして来週には、講座全体で各チームの発表を行います。

【改善点・課題】

京田辺の目指すまちとマッチしているか/費用面/管理するのは誰か/フリマは一般的だが独創性は何かこういった指摘のあったポイントをさらにチームで検討し、来週の提案発表までに改善する予定です。

2022年3月1日 SSR（高校2年生）－授業－

京田辺市への提案 -プレゼンテーション

Online

今日が、SSR 講座最後の授業となりました。生徒たちは SSS（高校1年生）から選択科目の SSR（高校2年生）へと学びを進めてきました。SSR の受講生はさらに選択科目 SSD（高校3年生）へと進み、3年間を通して共通の課題に取り組むことになります。最終的には、学んできたことを活かし、その内容を共有する場としても、高校生による国際会議の開催を目標にしています。

これまで取り組んできた京田辺のまちづくりのリサーチから、グループでの京田辺市への政策の提案、そして発表のための準備をしてきました。今日は、オンタイムで生徒たちと繋ぎ、実際の提言のプレゼンテーションを行います。

【最終的な準備として】

・「決めていない」「考えていない」は×

事前に指摘や質問があった内容に対して、「決めていない」「考えていない」では政策立案として相応しくありません。具体性が伴わないものは政策として成立しません。

・質問を想定し準備しているか

発表（提案）をする当日は、意見を出し合い、予め想定した質問には答えることができる準備をしておく。

言い負かされる→政策の失敗です。



【提案のプレゼンテーション】

4つのチームが順番に発表します。発表を視聴した生徒たちは、評価フォームへの記入をします。

●チーム A1『ふるさと納税』

子育て世代へのフリーマーケットとふるさと納税を結びつけてよりよいまちづくりの第一歩を！

既存の京田辺市の政策を調べると、子育て世代への福祉制度が充実していることがわかる。そこで京田辺の目指すまちづくりの方向性に沿った提案を考えた。



ふるさと納税の寄付金の返礼品や使い道の1つとして、また地元の大手企業の協力を得て、小学生から大学生の学生主体による、フリーマーケットを年に4回市内の小中学校で定期開催する。

【効果】

- ・年齢を問わず楽しむことができる
- ・学生の成長と自立、地域の人たちとの交流を促す
- ・フリーマーケットではゴミ削減、資源の有効利用、また安価でものを購入できる
- ・ネットでもアクセス可能とし、京田辺を内外に宣伝する効果も見込まれる



【質問】

Q.「大学生のボランティアとはどのように繋がるのか？」

A.「小学生にポスター制作依頼、あちこちに貼付、大学生には連絡先に問い合わせてもらおう」

Q.「全てボランティアで運営？」

A.「そうです、会場は体育館と WEB、運営できると考える。また無償であっても大学生は経験を積むことにメリットあり、それを感じにくい小学生には図書カードなど配ることも検討」

Q.「4つの小学校の選択の理由？」

A.「広範囲の住民を網羅できる立地を選択」

Q.「フリマの商品を選べるふるさと納税の返礼について、商品は比較的安いものになると思うが、送料は誰が負担？」

A.「今後要検討」

●チーム B1『エコパークでのインターンシップ』

「緑に包まれた美しいゼロカーボンシティ」へ導く京田辺市への提言

京田辺エコパーク甘南備園をより活用するため、インターンシップ制度を取り入れる政策立案をします。京田辺市の既存の取り組みからも、市民と行政のパートナーシップの構築を目指していることがわかる。

➡ 京田辺のリサイクルの主体である甘南備園のニーズに合わせ、学校を通じて学生のインターンシップを単位も取得可能な1つのカリキュラムとして実行する。



【効果】

- ・大学生の社会経験と地域交流
- ・大学生の環境問題への再認識

- ・若年層が運営に加わることで、新しいアイデア、持続的な活動に繋がる
- ・リサイクル率を上げて、ゴミを減らす
- ・大学生との運営により多くの既存のボランティアである高齢者のデジタル化の推進となる

【質問】

Q.「インターンシップで大学生はいても、利用が増えるか疑問？」

A.「大学生に関わってもらうことで、SNS で発信してもらうなど、利用者の拡大を狙う」

Q.「インターンシップの内容は？」

A.「既存の業務に加えて、リサイクル率の向上や、若い人の参加に向けて新しいアイデアの構築、SNS での発信、地元の住民、高齢者などとの交流」

Q.「インターンシップ制度を大学生がするメリットとは？」

A.「インターンシップといえば、多くの場合その場に就職する可能性があるが、ここでは単位取得が可能であることと、就職に向けての経験を積むこと」

Q.「蒼々たる企業のインターンの募集があるなか、学生が甘南備園のインターンシップに向かうモチベーションは？ 行きたいと思うインセンティブは？」

A.「京田辺でのインターンシップは限られおり、政策、環境問題に取り組みたいという学生、単位取得にもつながればさらにインセンティブとなる」

●チーム A2『より多くの人を楽しめる夏祭りの計画』

現在の京田辺市のイベントに焦点をあてた政策立案

現在のイベントを調べるうちに、高齢者の参加が多く、若者の参加は少ないことがわかった。

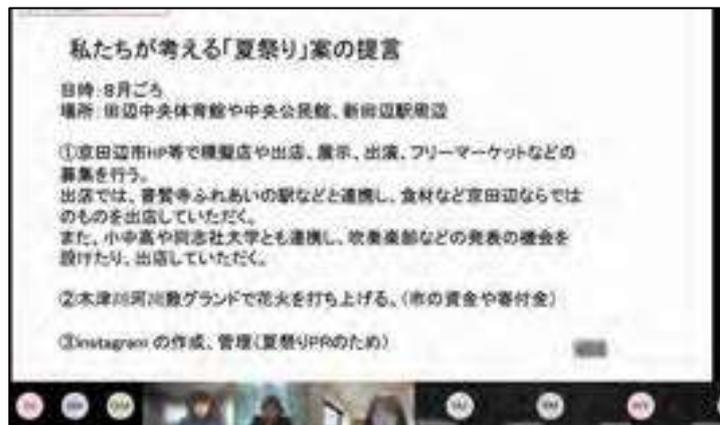
そこで、現在行われている夏祭りに焦点をあててより若者が集まる身近なお祭りにするためにはどうしたらよいかを考え立案する。

➡ 出店料を安くする、模擬店は京田辺に活動拠点のあ

る団体のみ、普賢寺ふれあいの駅ともコラボ、地域密着型の夏祭りとして、また地元の小中高、同志社大の吹奏楽部、チア、ダンス部などにも祭りの一員に加わってもらい、本来お祭り大好きな若い人の参加したくなる夏祭りを開催する。

【効果】

- ・SNS での発信で京田辺の知名度、地元の農工製品の認知度の向上
- ・地域活動への理解が深まり、コミュニティーも広がる



- ・地域の若者も参加する持続可能な祭りへ
- ・趣味の場の発見

【質問】

Q.「お祭りの際に、イベント会場が多いと参加者分散？花火大会をメインに楽しみと同時に認知度を高め（他の祭りとの差別化？）ては？」

A.「他のお祭りの差別化をはかるような工夫も必要」

Q.「夏祭りの売りが花火、資金が足りず中止となっているケースがあるが、市の資金や寄付金はどの程度の規模で？」

A.「集まったお金に合わせて実施（来年はもっととおもってくれる人たちも増えてくるかも）花火の企画は負担が大きいので資金の集め方についてはもっと考慮する必要有り」

Q.「宣伝方法は？」

A.「インスタグラム、市内の学校・施設での貼付、同大でボランティア募集（ボランティア、企画サークルなどの協力）」

Q.「花火の場所は木津川河川敷？見る人はどこから？」

A.「夕涼みの集いでは花火の計画があったので、これを参考に新田辺周辺が見やすいとの情報」

●チーム B2 ショウテンワツシよ『商店街の活性化』

長期にわたって全年代に利用される理想の空間作り

京田辺市の政策から、まち・人・しごと創生総合戦略があり、どのように新たな人の流れを作るか。また他の地域から新たな人を呼び込むか。京田辺へ新たな人の流れを作るまちづくり、交流、市民・利用者の地域利用の促進の面から政策立案する。



➡ 大学や市民間での交流の強化、他の地域から新たな人の呼び込み、多世代、地域間での交流の促進のために、駅前商店街の空き店舗を活用したコミュニティスペースを開設する。

【効果】

- ・学生、市民でのワークショップを行うことで、地域の交流の場がうまれる
- ・落ち着いて勉強や仕事ができるワーキングスペースやグループ交流の場の開設で、通学、通勤途中の学生や若い人たちの集客を見込める
- ・高齢者や小学生を対象としたコンピューター教室などのワークショップ、ヒューマンカレッジの開催などで年齢問わず人が集まり、商店街、地域の活性化へつながる

【質問】

Q.「施設の立ち上げ、内装や PC などの設備に初期費用がかかるがそれは誰が負担？」

A.「最初の初期投資についてはまだ詰めが甘かった」

Q.「図書館もあるが、自習スペースを開設するメリットは？」

A.「図書館は空いている時間が限られているが、コミュニティスペースやワーキングスペースは遅い時間や早い時間でも対応してより便利に」

「また静かにしないといけない図書館と違い、話し合ったり交流のできるスペースの提供」

Q.「自習室、コミュニティスペースの運営母体は誰？」

A.「商店街のひとたちを想定」

Q.「京田辺市に対する政策提案であるため、市に求めること、することを明確に」

A.「その部分の具体性に欠けるため、資金援助の面で再検討」

Q.「料金設定で、会員制 3 時間 2 5 0 0 円と割高の設定をしている理由は？」

A.「レンタルスペースを基準に考えたが、教室などにも活用できるレンタルスペースとしての活用の方法を PR する必要性」

「シャッター街であることから賃料の交渉の余地も考えて料金を再検討」

【プレゼンテーションを終えて】



西田喜久夫教諭より：それぞれのチームが、まだ政策提言としては弱い部分もあるが、最終的な形の方向性がみえたという成果を感じます。このメンバーは来年も SSD へと学びを続け、最終目的は国際会議です！それに向けて頑張っていきましょう。

佐藤友亮教諭より：オンラインが多くなりましたが、一年間本当に頑張りました。みなさんの当初からの成長を感じます。来年また！学びを活かして飛躍して欲しいと願います。

【課題】

- ・各チーム、自分のチームに関する評価をしましょう
- ・講座に対する感想、1 年の授業の振り返りをまとめましょう

【政策の提案 動画のリンク】

[https://intnlldoshisha.sharepoint.com/sites/2021SSR/Shared%20Documents/General/Recordings/3%E6%9C%88%E6%97%A5\(%E7%81%AB\)%E3%80%80SSR%E6%9C%80%E7%B5%82%E5%9B%9E-20220301_135945-%E4%BC%9A%E8%AD%B0%E3%81%AE%E9%8C%B2%E9%9F%B3.mp4?web=1](https://intnlldoshisha.sharepoint.com/sites/2021SSR/Shared%20Documents/General/Recordings/3%E6%9C%88%E6%97%A5(%E7%81%AB)%E3%80%80SSR%E6%9C%80%E7%B5%82%E5%9B%9E-20220301_135945-%E4%BC%9A%E8%AD%B0%E3%81%AE%E9%8C%B2%E9%9F%B3.mp4?web=1)